

笑説

大 でやあ  
なごやご  
じてん  
名古屋語  
辞典

清水義範

編・著

なかむら治彦

画



笑説

大  
でやあ  
なごやご  
じてん  
名古屋語  
辞典

清水義範

編・著

なかむら治彦

画



笑説

# 大名古屋語辞典

でやあなごやごじてん

---

1994年11月30日 第1刷発行 (検印廃止)

著者 清水義範

© YOSHINORI SHIMIZU 1994

編集人.....田村 侑

発行人.....星野雅良

発行所.....株式会社 学習研究社

〒145 東京都大田区上池台4-40-5

案内番号 (03) 3726-8111 編集部直通 (03) 3726-8307

印刷所.....凸版印刷(株)

---

本書の無断複製・転載・翻訳を禁じます。

定価はカバーに表示してあります。

ISBN4-05-400396-6 C0093

笑説 大名古屋語辞典

でやあなこやこじてん



## はじめに

まず、名古屋弁という概念を捨てよう。

その言い方は、名古屋を日本の中の一地方ととらえ、名古屋で話されている言葉を、ある地方の方言だと考えているわけである。

その考え方は、標準語（近頃は共通語と言ひ換えられている）対方言の関係を、主従のようにとらえている。標準語Ⅱ正しい、立派。方言Ⅱ正しくない、たーけらしい。

冗談こいてかん。訂正。ここでは共通語を使おう。冗談いっちゃいけない。

共通語というのは、確かに全日本のどこでも通じて便利であつて、NHKの全国放送では使えばいいが、別に、日本語として正しいわけでも身分が高いわけでもないのだ。あれは必要上生み出された便宜的な日本語であるにすぎない。

普通、方言と呼ばれている各地のお国言葉こそ、由緒も歴史もあるそれぞれのもとの日本語なのである。

だからこの辞典では、名古屋弁と言わずに名古屋語と称する。

そもそも名古屋（本書では、広く名古屋文化圏を名古屋と称する。愛知県全域及び岐阜県南部である）は、他の日本各地とは風俗や文化を大きく異にする特殊な一地方である。鎖国政策でもとっているかと思うほど閉鎖的で排他的で、他の日本とは無縁の生活と思想を守り続けて

いる。まるで名古屋国、という独立国があるかのようなのである。

その意味でも、名古屋語という名称がふさわしいというものであろう。

本書は、その名古屋語の、生きた姿をやみくもに伝えてしまいかつてない辞典である。

生きた姿、というのがポイントだ。これまでも名古屋弁辞典の類がないことはないのだが、それらは、いったいどこから探してきたんだ、と言いたくなるような古老の名古屋語を並べたて、名古屋に生まれて人生五十年、まっとうに生き抜いてきたというような生粋の名古屋人でもきいたことがないような語をもって名古屋語だと称しているのである。

そのくせ、ビー玉やメンコや、じゃんけんのことを名古屋語ではどう言うか、というような基本的なことには触れていない欠陥辞典であった。

本書はそうではなく、名古屋人の中に生きている本当の名古屋語を取り上げている。この辞典によって、ようやく本当の名古屋語が世界に紹介されるのである。

そのために、名古屋語研究文化委員会設立準備グループ推進有志数名、という組織が作られ、その者たちにより名古屋語が収集された。私はその監修の任にあたった。そのようにして、この画期的な辞典は生まれた。この辞典には、最近は『広辞苑』のような辞典でもやっていることだが、単に言葉だけではなく、事項も取りあげ、名古屋百科事典的な性格を持たせている。単に言葉だけではなく、名古屋文化を知ってもらってこそ名古屋が理解できるはずだという、私の思想によるものである。立派だ。

ただし、どのような研究成果でも、人間のやることである限り、誤謬ゼロというわけにはいかないものだ。この辞典にだって、誤りがないと断定はできない。

解釈が違うぞ、とか。

近頃はそんなふうには言わんぞ、とか。

わやくちや言つとるがや、とか。

冗談こいとってかん、とか。

そういう抗議が来そうな点もひよつとしたらあるかもしれない。

それに対しては私はこう言う。

知らん。

そこまでは責任とらん。

なぜなら、その辺についてはテキストにやっていくのが名古屋文化だからである。



清水義範



# もくじ

はじめに

3

凡例

8

## 笑説 大名古屋語辞典

【あ】

9

【か】

45

【さ】

72

【た】

95

【な】

128

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 【は】             | 145 |
| 【ま】             | 160 |
| 【や】             | 180 |
| 【ら】             | 189 |
| 【わ】             | 193 |
| 【ん】             | 194 |
| 付録① 名古屋語について    | 197 |
| 付録② 名古屋語テスト     | 203 |
| 共通語↓名古屋語索引      | 206 |
| あとがき① (清水義範版)   | 208 |
| あとがき② (なかむら治彦版) | 211 |

## 〔凡例〕

- 一、現代名古屋語と、名古屋関連事項とを、五十音順に配列した。
- 二、見出しには次のようなルールがある。
  - ・名古屋語……原則として平仮名とし、一部片仮名もある。
  - ・事項……漢字で表記すべきものは漢字を見出しに立て、難読語については（ ）内に読みを入れる。そのあとに〔事〕の記号。
- 三、他の項目に説明のあるものについては、↓で示した。
- 四、〔例〕は実際の使用例である。読者の便を考えて、（ ）内に共通語訳を付した。
- 五、わからない言葉についても適当に説明しておいた。

# 【愛知教育大学】〔事〕

私の卒業した大学である。ただし、どこにあったのかよく覚えていない。というのは、その昔、この大学は二か所に分かれていて、一、二年生は名古屋分校、三、四年生は岡崎分校へ通ったのだ。ところがその方式で私が三年生まで通ったところで、刈谷の地に統合した。だから私、四年生の時は刈谷に通ったのであり、ひとつの大学なのに三か所へ行っただけである。どこ



# あ

行

が母校なのかよくわからんのも無理はないであろう。そもそもこの大学は、受験した時は愛知学芸大学だったのに、入学する時は愛知教育大学になっていたという、名前さえ不安定な学校だったのですよ。



## 【あつたさん】〔事〕

「さん」とついても人名でも山でもない。熱田神宮のことである。名古屋人の発音は、「あつたさん」と聞こえる。単に、「あつた」とも言う。かの空海が杖を立てたところ、田んぼから熱い

水（温泉）が湧き出たことから「熱田」の名が付いたという伝説がある？ 三種の神器のひとつ、「草薙の劔」があるといわれているが、単なる草を刈る鎌が置いてあるだけ、という人もいる。

## 【あのよう】

共通語の「あの…」と同じように呼びかけに使われることもあるが、話の初めに枕詞的に置かれたり、会話の話題を変えるための区切り、言いにくい時の場つなぎ等に意味もなく使われることも多い。しかし、この「あのよう」のおかげで名古屋の人間関係は円滑にいくのである。名古屋人は多用するのでぜひマスターしておきたい。

（例）「あのよう、何かようきやあ」

（もしもし、何か用ですか？）

「ようなんか、ありやせん」



(ないですよ)

## 【海部（あま）】〔事〕

海に潜ってサザエやアワビを採るのは海女。海部とは海部郡のことである。名古屋市西方の蟹江（かにえ）、弥富（やとみ）、佐古木（さこぎ）等は、金魚の養殖の盛んな所としても知られている。かつて、伊勢湾台風の影響にあった時、逃げ出した金魚を採って大金持ちになろうと全国から多くの人間が殺到し、一躍有名になった。ただし、今はそのあたりはうなぎの養殖が盛んで、愛知県は養殖うなぎの生産量日本一を誇る。いつまでも愛知県が浜松ごときに負けとると思つたらおーまちがい。なお、かつて日本国の首相を務めた海部（かいふ）首相が海部郡と関係あるかどうかは不明である。

## 【あらけねやあ】

「乱暴な」という意味。「あらげんねやあ」ともいう。ねやあ、は共通語で言う「みつともない」などの、ない、の名古屋語発音。しばしば「にやあ」と表記されるが、私は「ねやあ」と表記している。私の育った西区浄心地区では「あらけねやあ」と言い、落語家三遊亭円丈師匠の育

った雁道地区では、「あららげねやあ」が使われたそうだ。

(例)「あらけねやことしやーすな。障子が破れるで」

(乱暴なことをしちゃいけません。障子が破れるから)

〔資料〕あらけ・あららげ論争

名古屋国を二分して争われた大論争。清水の右の文章に対し円丈師匠が「清水さん、『あらけねやあ』はローカルだねやあきやあ、名古屋人なら『あららげねやあ』使わなかなで」と言ったのが論争の発端。清水が「とろくせやあこと言っとつてかん、『あらけねやあ』こそ正しい名古屋語だがや」と反論して一大論争となった。現在に至るも決着はついていない。

## 【あらすか】

アラスカのことではなく、「ありはしませんよ」つまり、「ないです」の意味。名古屋人は否定の時しばしばこの語を使うので、よほど寒い土地なのかと思ってしまう。あらすきや、と変化することもある。丁寧語は「ありやーすか」。

(例)「じいさんが亡(の)うなつて、遺産がよーけあるだろ」

(おじいさんが亡くなつて、遺産がたくさんあるでしょう)

「そんなもんあらすか」



(そんなものないですよ)

## 【安城（あんじょう）】〔事〕

「名古屋国のデンマーク」といわれる農業都市。名古屋国有数の裕福な地帯で「あんじょうや」として（うまくやっておいでください）という言葉はこの安城からきているかどうか知らん。「あんじょうやる」は、「あんばよう」からの派生語かもしれない。↓あんばよう

## 【あんびやあ】

共通語の「塩梅（あんばい）」のことで、具合や程度の状態をあらわす古語。略して「あんば」ともいう。

(例) 「じっさのあんびやあどうでやあ」

(おじいさんの具合はどうですか?)

「びんぴんしとるぎやあ」

(元気でびんぴんしてますよ)

「そりや、あんびやあわりーがね」